

ロックの支部化」と題して、宮下秀
「公益社団法人化推進と首都圏ブ

100周年事業を機に首都圏支
部化への動きが推進され、昨年(平
成19年)度、新たに栃木、茨城、
千葉の三つの支部が誕生し、全国
28支部となりました。また、ここ
にきて新しい法人制度への対応と
並行して支部化促進の機運が高ま
り、設立の可能性の高い東京多摩
地域の「多摩支部設立懇談会」が、
6月13日、当会会議室で開催され
ました。多摩地域在住会員は約4
65名、26市2町から約20名近い
会員が集まり懇談いたしました。

すでに『山』1月(752)号で
会員が集まり懇談いたしました。
会員が誇りと自信のもてる組織づ
くりの一環として、今後も支部化
推進を図っていきたいと考えます。

新規会員、関係者からも
「創設してよかったです」という声が多
く聞かれます。まだ支部に加入し
ていない会員にも支部化への理解
と積極的な参画を望みたいと思いま
す。

2007年の資料ですが、全国
会員数約5550名のうち310
0名が支部所属会員(56%)で、首
都圏の支部未加入会員が2050
名(37%)、その他海外在住者、外国
会員など400名(7%)という
状況下で、東京近在、首都圏会員
は本部活動の傘下のなかで支部意
識も希薄になります。地方支
部の会員は通常会費の他に支部会
費まで納め、かつ本部施設の利用、
行事への参加もままならない環境
のなかで運営、活動に従事し、自
分たちの努力で日本山岳会を支え、
クラブライフを楽しんでいます。

最近では支部間の交流、情報交
換も盛んとなり、北海道支部と九
州支部の南北登山交流、日本真ん
中五支部(京都、岐阜、福井、石
川、富山)懇談会、また、新たに
できた栃木、茨城、千葉・新支部

樹会長が述べているように組織の
活性化、きめ細かい活動、平等性、
公平性など、支部化は新しい法人
制度の施行に合わせて体质、組織
を変えられるひとつチャンスです。
これから時代の流れと認識して、
しっかりと支部化基本要項作成
に基づき、次の段階に進もうと懇
談会を終えました。

支部の役割と首都圏支部化の動き

神崎忠男



2008年(平成20年)
7月号(No.758)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部 150円
URL●<http://www.jac.or.jp>
e-mail●jac-room@jac.or.jp

目次

支部の役割と首都圏支部化の動き	1
首都圏三支部の成果と課題	2
観察会バスが大地震に遭遇、崖下に転落	4
地震お見舞い	4
中越地震の山への影響	5
登山道のあり方を考える	
J A Cヒマラヤ環境調査隊	6
エヴェレスト街道を行く	
南アルプスへのシカの進出と対策	7
活動報告	9
山研運営委員会/科学委員会	
東西南北	11
丹沢のヤマビル	
発掘された辻村伊助の旧蔵本	
支部だより	12
秋田支部/東海支部/岐阜支部	
図書紹介	14
図書受入報告	15
会務報告	16
ルーム日誌	17
会員異動	17
新入会員	17
INFORMATION	18
さんけん通信	19

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時
夏季休室 8月9日~8月17日

首都圏三支部の成果と課題

支部で仲間づくり

栃木支部は昨年5月27日に会員33名をもつて設立しました。本年度の支部通常総会は去る5月24日開催し、この時点での会員は43名、1年間で10名増えたことになります。

今年度の通常総会の折、日下田支部長から次のような挨拶がありました。「私事になりますが、私は今まで狭く深い山登りをし、その延長でマナスルまで行つたわけで、国内の山は穂高岳以外ほとんど知りません。支部設立を機に今後は支部の皆様と故郷の山を歩いてみたいと思います。また、今後は公益法人化の動きともあいまって、支部の仲間を増やし、青少年（高体連の高校生を中心に）に山登りのおもしろさを教えるようなことも踏まえて、支部活動の活性化になげていきたいと考えています」

この支部長の挨拶のなかに本支部の成果と課題が凝縮されています。成果は、なんと言つても仲間作りです。本支部のような小さな支部が、支部設立を機に10名の会



通常総会で挨拶する日下田支部長

員（30～40代が5名）を得たということは大きな成果です。地域の仲間との絆を深め、日光や那須の山々に恵まれた地の利をいかし、これまでのどちらかと言えば本部指向型の活動から、地に足がついた活動が始まっています。日下田支部長が昨年の支部山行で栃木県の最高峰白根山に初めて登つたときの話は、参加者に大きな驚きでもありました。アルパインクラブである以上、その前提は登山活動であり、その精神はバイオニア・スピリットがベースになければなりません。本支部は、故郷の山からヒマラヤまで、夢多き登山を志向する集団であります。

課題は、私たちの活動を後進に確実に伝えていく責務を果たすことです。幸いに本支部員には高校の教員も多く加入しており、県山岳連盟の役員になつておられる方達もあります。こうした関係を活用して、若い登山者の育成に一石を投じ、いすれば本支部の会員として一緒に活動していくことが必要です。支部活動の活性化にはクラブとしての世代の継続性が不可欠です。

現代の若者は、電子映像メディアに毒されています。この現実は、若者から人間らしさを奪い体力を奪い気力を奪っています。自然の中で遊ぶこと、体験することのおもしろさは人類がこの地上に誕生してから搖るぎのない活動として継続されています。本支部では社会貢献事業として講演会や映画会を開催し、このようなことを理解し推進するおとなを1人でも多く巻き込み、地域の若者がチャレンジ精神をもつて活動できるように努めています。

私たちおとなが夢を持つて生き生きと登山活動を行なうこと、そのことが若者の登山離れを阻止することにつながると確信しています。

（栃木支部事務局長 渡邊雄二）

実り多い公開講演会

昨年6月15日に土浦市内にて設立総会を開催し、日本山岳会の27番目の支部として正式に発足して、1年目を迎えた。

当初21人の会員で発足したが、現在26人となり、この1年間で5人の新しい会員を迎えることができた。毎回約30人の一般市民へ向けた公開講演会は、2カ月ごとに開催され、今日まで6回にわたって実施してきた。とくに第1回目と本年の創立記念講演会の2回は、星埜支部長（国土地理院前院長）による「伊能忠敬に始まる科学的地図」および「景観と地図」についてきわめてわかりやすい内容で、聴衆に大変好評だった。

また2回目の奥井支部長代行（京大薬学OB）による「免疫化学について、抗原と抗体との化学反応」のトピックスは、近年のハシカの流行との関連で参加者の高い興味を惹くところとなつた。また3回目の私の「富士山測候所の現状と未来」についての話題も、聴衆に高い関心を呼ぶことができたようだ。さらに4回目の酒井会員による「聖山カイラスを巡礼して」



毎回好評の茨城支部による公開講演会

も、外国での山行の魅力を抱かせるに十分なものであった。また5回目の川久保会員による「崑崙山脈西部の山旅と高所順応について」は、地元紙の常陽新聞の取材を受け、5月22日の朝刊に写真入りで詳細な紹介記事が掲載された。

山行については、第1回（9月29日）の筑波山登山を最初に、今日まで隔月ごとに5回実施してきた。このなかに本年2月に日光で開催された栃木、千葉、茨城の三支部合同懇親山行が含まれている。

2009年2月は千葉、2010年2月はわが支部が主催し、順繰りに懇親を深める絶好の機会しようと企画している。

今後の課題としては、まず会員の増加があげられる。このためには、日本山岳協会の茨城県山岳連盟および高体連登山部との交流を深めていくことが肝要と思われる。またこの度、本支部に支部友制度を創設した。この制度を活用して特に若い人の参加を期待したい。

また活性化のための方策として、山行、講演会および自然保護活動を着実に進めるとともに、とくにアンチエイジングと健康維持増進への登山の有効性を啓蒙していくたいと思っている。

（茨城支部事務局長 浅野勝己）

豊かなクラブライフ

2007年6月24日に設立総会を開催し、ちょうど1年が経過した。成果をと問われてもまだ答えるべきものを持たないが、あえて言えば1月25日に初回の有志懇談会を開催し、それから5ヶ月弱の短時間で設立に漕ぎつけたことであろうか。理念として、「より楽しい、より豊かなクラブライフを目指し、新しい出会いの場を作る」ことを掲げた。奇をてらわず、まずは支部会員同志が顔を合わせ仲よくなることを考えた。さいわい、山行、懇親会、自然観察会、講演

会など行事を行なうことができた。年次晩餐会では、地の利をいかし28支部のなかで一番多くの参加者を得た。設立所期の目的はそれなりに達成することができたと考えている。

栃木支部の提案により、日光湯元で栃木、茨城、千葉三支部合同の懇親会が開催された。本部からも宮下会長ほかの参加者を得、新支部同志での貴重な懇親、そして情報交換の場とすることができた。

千葉支部は、東京に隣接する唯一の支部である。設立検討時には、千葉在住の会員には、すでに同好会、同期会あるいは各委員会に所属し、そこを止まり木として活動する会員も少なくなかつた。今さ



千葉の名峰、鋸山にて

ら支部の存在は不要とも言われた。設立検討に際し、最も悩んだのはこの点であり、果たしてどれだけの会員が支部に加入してくれるであろうかとの不安は拭いきれなかった。結果としては、100名を超える人たちに参加していただいた。加入してくれた会員各位に感謝するとともに、これは大きな成果といえるであろう。これからのもっと大きな課題は、この期待に応えていくことである。

本年5月に、第1回の通常総会を終えることができた。課題は、まずは支部行事の充実である。ついで、里山文化発信県の支部として里山保全活動への参画。登山を通じて地域へのボランティア活動等についても具体的な検討をはじめたい。委員会、同好会活動などに積極的に協力していくことも、東京に隣接する支部としての責務であろうとを考えている。

この総会で会友制度を新設することとした。支部の活動を正会員だけに限定せず広く会友にも支部行事に参加してもらうことにより、支部活動の活性化、ひいては地域貢献の一環としても位置づけていきたい。（千葉支部長 篠崎仁）

観察会、バスが大地震に遭遇、崖下に転落

岩手支部 小野寺正英

6月14日の日帰り企画は、山岳会岩手支部のメンバーが多く加わっている「胆沢ダム水資源のブナ原生林を守る会」の主催でした。計画では媚山周辺から衣川漆の道と秋田仙北街道を探索ののち大平野発掘調査地に戻つて調査の説明を聞き、一万年くらい前の人の生活痕跡等をたどる予定でした。

シラキリ沢林道を通過中の午前8時40分過ぎ、進行方向右斜面から突然土砂が樹木とともにバスを直撃、ゆっくり進んでいたバスは1メートルほど谷側に押されると同時に路面の陥没により傾いて停止しました。バスは底から突き上げられるように激しく震動するので地震と判断しました。

「あわてず、荷物は後で」と運転手さんに指示され、土砂で半分埋まつた山側の窓二つから、窓の近くにいた人と女性を優先的に引き出すように脱出しました。「守る会」の事務局員に、電話の通じる場所まで（1時間ほど）駆け下りてもらい、救助連絡をしました。

ところが、12名が外に出たところで激しい余震があり、残つた8名を乗せたままバスは谷に横転しながら落下しました。

誰もが脱出しようとシートベルトをはずしており、まさに脱出

ようとしていた菊池支部長、近藤会員は落下につかむものもなかつたと思います。2、3回転したバスは30メートルほど落下して大木にぶつかり前方を上に向けて停止しました。内部をのぞくと落下の衝撃で窓ガラスはなく座席のシートも飛び、鉄パイプやアングルがむき出しになつていきました。8人に声をかけると「みんな重傷だ」の声。歩ける人2名、肩をかして動ける人2名、まったく動けない人4名を窓から引きずり出し、落石の心配のない樹林の中に運びました。

救助のヘリコプターが上空に旋回するまでの5時間余り、ゴーゴーという山鳴りとともに揺れ動く大地の恐怖に、重傷者を抱えて何の連絡も取れない場所にいる不安が押し寄せ、無力を感じました。

あの日、14日はテレビの地震速報に一日中くぎづけになつた。夕方のニュースで岩手支部の小野寺事務局長のお顔を見つけて驚愕しました。皆さん、20メートルの崖下に転落したバスに乗っていたのだ。

支部員で参加したのは4人でうち2人が重傷。支部長は骨折などで全治4カ月と診断されましたが回復に向かつており、2度目の手術も無事終わりました。近藤会員はギブスをかけたままで4、5日前に退院しました。

なお、参加者にかけた保険は1日旅行保険で地震災害には適用外、車の自賠責も適用外のため負傷者とその家族に医療費等の支払いは個人負担でお願いしますとその旨を説明して了解を得ました。しかし、完治するまでには何度も手術が必要な人もおり、支部としてどのように負担の軽減に役立てるか検討中です。

*
当会では7月9日の理事会で、今回のバス事故被害者に対して見舞金を送ることを決めました。なお、個人で見舞金を、とお考えの方は宮崎絃一常務理事まで連絡してください。

行事を企画、実行したものとして、8人の負傷者のうち「守る会」以外の一般参加者が1名だけだったこと、あれだけの事故で負傷者の命に別状がなかつた事は不幸中の幸いでした。公益活動を支部としてどのように実行できるかなどを課題として協賛の取り組みを始めようかと思った矢先でした。

行事を企画、実行したものとして、8人の負傷者のうち「守る会」以外の一般参加者が1名だけだったこと、あれだけの事故で負傷者の命に別状がなかつた事は不幸中の幸いでした。公益活動を支部としてどのように実行できるかなどを課題として協賛の取り組みを始めようかと思った矢先でした。

宮下秀樹

地震お見舞い

行なったこと、8人の負傷者のうち「守る会」以外の一般参加者が1名だけだったこと、あれだけの事故で負傷者の命に別状がなかつた事は不幸中の幸いでした。公益活動を支部としてどのように実行できるかなどを課題として協賛の取り組みを始めようかと思った矢先でした。

あの日、14日はテレビの地震速報に一日中くぎづけになつた。夕方のニュースで岩手支部の小野寺事務局長のお顔を見つけて驚愕しました。皆さん、20メートルの崖下に転落したバスに乗っていたのだ。

中越地震の山への影響 登山道のあり方を考える

越後支部　皆川陽一

中越地震で感じた事。それは、地震による亀裂や陥没・崩壊などの被害が登山道付近に多く見られるということです。2004年10月23日17時56分、新潟県中越地方においてM6・8の中越地震が発生しました。各地で大きな被害があり、山古志のように震源地近くでは、山そのものが崩落しましたが、離れた場所でも多くの影響が見られました。

私が勤務する会社は各電力会社の送電線の建設・調査・保守などの仕事をしています。今回の地震により送電線や鉄塔にも大変な被害があり、魚沼や小千谷市の現場を歩き、ヘリで上空からも視察しました。また個人的にも、震源地から十数キロの長岡、栃尾の東山一帯を歩いてみました。そして感じた事は、亀裂や陥没・崩壊などの被害は人の手の加えられたところから多く発生しているということです。特になぜか登山道や巡視路沿いに亀裂や陥没が走っていると

感じました。はじめは悪い所に巡視路を作つたものだと思いながら歩いていましたが、巡視路沿いに亀裂が入つたことが正解のようです。

長岡東山から小千谷、川口にかけての田圃や池の崩落も、液状化に伴い、山がまるで生コンのよう崩れていきました。土木に携わるものとしてのあくまでも推測ですが、地震や大雨のように異常な荷重などがかかる場合には、何らかの手が加えられたところから、亀裂や陥没・崩壊などが始まるのではないかと想えます。盛

土だけでなく、切土したところでの崩落も同じではないでしょうか。それまで私は、自然界の中では人の歩くことなどちっぽけな事ではないかと考えていました。でも、そのちっぽけな事が、確実に自然界に影響を及ぼしているのだと考えを新たにしたところです。もちろん、道路やダムなど大規模な工事に比べて、登山道や巡視路な

どの影響は小さなものだとは思いますが。新たに作る際に、地震の影響まで考えてルートを決めることが必要だと思います。しかし、登山道の荒廃が問題となる昨今、登山道そのものが自然に影響を及ぼしているということを理解する必要があります。

百名山ブームのなか、手軽な登山が喜ばれ新しい登山ルートもできているようですが、むやみに道を切り拓くことは避け、場合によつては白神山地のように一般者の入山制限などもやむを得ないのでないでしょうか。山は、百名山などの有名な山だけが良いとは思いません。百名山登山達成のためには、どうしても登らなければという人は、その人のエゴでしかないと思います。自然保護を進める当会として、もっと広い視点で山を薦め、名山ブームから離れる必要があるのではないかと想えました。たとえば、積雪地域での冬山は自然への影響も少ない反面、それなりの知識と登山技術も必要になります。もつとそのような教育や講習を進めるべきでしょう。豪雪地帯の低山でのラッセルや雪洞などはまた格別の楽しみがあるものです。

当会は山の好きな人、自然を愛する人たちの集まりであり、日本の山岳会の先駆者であります。その証に、会の定款には次のような一文を見ることができます。

「本会は、山岳に関する研究、知識の普及および健全な登山指導、奨励をなし」

前越後支部長の室賀氏に「巡視路や登山道を作る際など、自然の地形をできるだけ壊さず、特に排水に気をつけなければならない」とお聞きした事があります。やむを得ず新しく道を作る際には、そういう基本を守ることの大切さを改めて思います。

地震の跡を見るにつけて、山に入る人間の一人として、無意味な伐採など極力避け、山に入らせてもらう、という謙虚な気持ちが大切ではないかとつくづく感じています。地震による亀裂・陥没・崩壊などは人の手が加えられたところに多く見られるという事実から考える自然と山、皆さんにも知つていただければと思います。

J A Cヒマラヤ環境調査隊 エヴェレスト街道を行く

自然保護委員会、科学委員会共催

昨年12月22日、麹町区民館で慶應大学の福井教授によるヒマラヤの氷河湖の調査活動に関する報告会が開かれた。同教授によれば、地球温暖化の影響で氷河の融解が顕著で、現在ヒマラヤ周辺の氷河湖の数は9000、そのうち決壊の危険性があるものは200にのぼるという。福井教授は、その中でもつとも決壊の可能性が高いといわれている、エヴェレスト・ローツェ山麓にあるイムジャ湖をターゲットとして、昨年11月、現地にモニターネット回線を通して世界どこの環境を作つて帰国した。今後、流域住民に対する警報システムの設置や、決壊を未然に防ぐ対策の検討まで視野に入れている。

この報告会に同席した宮下会長と福井教授の間で、「J A Cとして何か手助けできることはないだろうか」という会話が交わされた。これがきっかけで、自然保護委員会と科学委員会が中心になり、同教授がイムジャ湖を再訪する時期に合わせてJ A Cとして環境調査隊を出そうという話が急速に進展した。早速、2月初旬にルームで企画された同教授の講演会に、会場にあふれる会員が集まつたのも、募集した企画に定員をオーバーする参加者が集まり第二隊まで編成することになったのも、地球温暖化や山岳環境の問題に対する会員の関心の高さを示す証左であろう。

十分な準備時間もないままわたくしく実施にこぎつけたこの計画であつたが、予期した以上の成果を収めて帰国できたのはうれしい限りであった。以下に、簡単にわれわれの足跡を述べておこう。

第一隊（4月23日～5月13日／17名）のテーマは、イムジャ湖が決壊した場合の流域の影響度について、第二隊（4月25日～5月15日／7名）のテーマは、エヴェレスト街道のゴミ問題について調べることであつた。

第一隊は、ルクラを出発してイムジャ湖に至る道すがら、①集落の人口調査／8カ所、②環境の変化と住民の意識調査／インタビューミ50名、③川筋周辺の住家やインフラ（橋、発電所）の測地調査／30件を実施した。現地語と日本語を解し現地事情に精通した4名のサーダーを隊に配し、ネパール語とネパールの国情に精通したツアーマネージャーに協力してもらつたことが、この作業をスムーズに進展させる大きな力になつた。

イムジャ湖自体の研究調査は福井教授以外にも事例があるが、流域の調査についてはほとんど事例がないと思われる。福井教授に対しても有意なデータ提供ができるようである。住民のインタビューで印象に残つたのは、山の雪が昔と比べて大幅に減少し黒い岩の地肌がむき出しになつてゐること、住居地の降雪も大幅に減つたこと、森林が伐採によつて消えていつたことなどが異口同音に語られたことである。元をただせば、消費文明を謳歌しているわれわれ先進国が放出CO₂に起因する温暖化現象や、先進国から押し寄せる登山隊やトレッカーの増加に対応して口

第一隊は、ルクラを出発してイムジャ湖に至る道すがら、①集落の人口調査／8カ所、②環境の変化と住民の意識調査／インタビューミ50名、③川筋周辺の住家やインフラ（橋、発電所）の測地調査／30件を実施した。現地語と日本語を解し現地事情に精通した4名のサーダーを隊に配し、ネパール語とネパールの国情に精通したツアーマネージャーに協力してもらつたことが、この作業をスムーズに進展させる大きな力になつた。

このような調査をしながら、モンスーン前のエヴェレスト街道を、道中刻々と表情を変えながら聳えるアマ・ダブラムの美しい姿を眺め、正面に壁のように立ちふさがるローツェやエヴェレストを遠望しながらトレッキングを続けた。イムジャ湖では、すでに現地入りしている福井チームのスタッフから通信基地の説明や氷河湖をせき止めているモレーンの物理探査の報告を聞いた。その後、福井教授ともお会いして、直接、今回の遠征の目的について話を伺つた。

フィナーレはカラパタル（5590メートル）登頂。晴天のエヴェレストや名峰ブモリを仰ぎ見て、一同感激に満つて帰路についた。

調査活動については、別途、報告会の開催と報告書の作成を予定している。

（山川陽二）

ツジが増え建材や薪の消費量が増えたことに原因があり、自分たちの責任を痛感した。

第二隊は、ゴミ問題について、

ゴミ処理を中心に関取り調査を行なつた。処理方法などについての本格調査の事例はあまり聞かないでの、これも貴重な情報になるだろう。

この調査をしながら、モ

南アルプスへのシカの進出と対策

植松晃岳

迎えてくれたのは毒草ばかり！

2007年6月、南アルプス（以下南ア）の塩見岳に行つた。アプローチである大鹿村の鳥倉林道は、アサギマダラのマークリングで何度も訪れている。食草であるイケマダラが多産している場所だ。その理由を考えながら登山口から三伏峠へ向かつて森林帯を歩き始める

と、何か様子がおかしい。下草がなく、植物の種類が極めて少ない。そのまま登り続けると、草原のように光景が随所で見られるようになった。

そう、シカが下草を食べてしまつていたのだ。南アなのにその光景はヨーロッパの牧草地帯のようだつた。山の植物はほとんどなく、生えているのはコバイケイソウ、トリカブト、マルバダケブキなどの毒草。ハクサンフウロやニッコウキスゲなど見慣れた高山植物はまったくなく、その殺風景な光景は、森林限界近くまで続いた。

高山植物に大きな被害

中部森林管理局（長野市）は、06、07年度に南アの一部でニホンジカの被害調査を実施した。それによるとシカ被害の現状は次のようになっている。

①仙丈ヶ岳から塩見岳周辺の南アの代表的なお花畑のほとんどが、食害で消滅または衰退した。

②仙丈ヶ岳は山頂まで、塩見岳は山頂直下、聖、赤石、荒川岳はハイマツ帯下部まで進出していった。③被害を受けた希少種は30種類にも及び、南ア特産のタカネビランジやアカイシリンドウ、キタダケヨモギなども被害を受けた。またホティアツモリソウやキバナノアツモリソウなどは絶滅の可能性も示唆された。

④タカネアオチドリはすべての箇所で絶滅し、ニヨホウチドリは岩場を除き消滅した。

⑤高山植物が大きな被害を受ける一方、シカのエサにならないコバイケイソウやマルバダケブキ、シダ類などが繁茂していた。

⑥シカの食害が顕著な場所では、お花畑が消えて牧草地のようになつているところもあり、地表の裸地化で表土の流出も懸念された。

⑦特に三伏峠や馬ノ背の尾根などに、いつたいシカはどのくらい生息しているのか。長野県林務部によると06年、県内のシカの推定生息数は約6万1600頭とされ、南ア山麓には約半分の3万600頭が生息しているという。南アは長野だけではなく山梨、静岡にもまたがっているので、実際の生息数はこれよりも多いことになる。

また中央アルプスでは40年ほど前に絶滅したともいわれていたが、数年前から目撃例が相次ぎ、南ア一帯のシカが天竜川を越えて中央アルプス山麓で繁殖、生息域を西に拡大していると推測されている。美ヶ原や霧ヶ峰などにもシカは進出しており、ニッコウキスゲや牧草、樹木のカワハギなど大きな被害をもたらしている。07年には乗鞍高原の近くでも確認され、シ

カの北アルプスへの進出はなんとしても防がなくてはならない。シカはなぜ増えたのか

信州でのシカの生息数は、雪が

多いことと明治大正期に狩猟で捕獲されたことから、それほど多くなかつたという。ではなぜ、2000年ごろから急増したのか。いくつかの理由が考えられる。まず1955～65（昭和30～40）年代に行なわれた拡大造林により、森林が広範囲に伐採された。その結果、下草が成長し一時的にシカの餌量が増えた。そのことがシカの増加の直接のきっかけと言われている。その後、森林が放置されるようになり、シカの食草はますます増えていった。つまり「里地・里山環境の荒廃」だ。

暖冬が死亡率を下げたことも原因だ。大雪だと生き残れなかつた大きなオスジカや子ジカが生き残るようになつた。そして2歳から繁殖するというシカの強い繁殖力も根底にある。シカの捕食者である上位の動物が少ないことも一つだ。かつてはオオカミがいたが、現在では絶滅している。

さらに狩猟者の減少も大きな原因となつていて。狩猟者の数は全

国ではこの30年で約半数以下、長野県では4分の1に減少。同時に高齢化も進み、現在では減少の一途をたどっている。

シカは最近になつていきなり増えたのではなく徐々に増加し、シカが目立ち始めた頃には、もうすでに爆発的に増える個体数になつていただの。指数関数的な増加をするので、最初は緩やか、途中から爆発的に増える。だから今いきなり増えたように見えるのだ。

高山に向かうシカ

複合的な理由による個体数の増加に加え、暖冬などの影響で生息域が縦軸に伸びたシカは、さらにエサを求めて高山に進出していく。平行移動は河川や人間の居住地などに妨げられ困難だが、ただ上に登つていくだけの垂直移動はシカにとって簡単である。その上がありがたいことに時には道が用意されていた。人間が作った「林道」という名前の道。スーパー林道やビーナスラインは人間だけでなく、シカやキツネなどの動物も高山に導いた。

そして競合種がほとんどいない高山のお花畑は、絶好の餌場となつた。食べるものはいくらでもあ

る。そして毒草だけが残された。だから鳥倉林道では林道脇の植物はきれいに食べられた。

山の環境と生態系を変えてしまう

シカの高山への進出は具体的にどのような影響を及ぼすのか。まず高山植物の減少や希少種の絶滅が随所で起こる。限られた場所にしかない高山植物は一度絶滅すると、回復にはとても時間がかかる。また、高山植物を蜜源や食草として利用していた高山チョウや昆虫への影響も出る。高山チョウではないがアサギマダラの増加がない例だ。イワヒバリやライチョウなどの鳥類にも影響を与える。

またカモシカとの種間競争が起きることにより、カモシカの生息密度が減少するかもしれない。シカの被食圧に対する耐性の高いイネ、シダ類及びコバイケイソウやマルバダケブキなどの毒性植物の占有による植生の単純化と多様性の喪失も起きる。天然林の稚樹が食害にあつてのことから、数十年後の森林生態系への影響も考えられる。

さらにお花畑がなくなることにによる山岳景観の消失も大きな問題である。このほか裸地化による表

土流出や災害の危険性や糞による水場の汚染なども指摘されている。

抜本的な対策は絶対数を減らすしかない

高山へのシカの被害を減らすための対策は多く分けて二つ。①シカの絶対数を減らすこと。数を減らすのには数年かかるが、一番実効的である。②高山への進出を防ぐために具体的な施策を実行すること。高山植物の絶滅は急加速で進んでおり、いつたんなくなると回復困難なこともあるので、可及的速やかな対策が必要だ。

①の対策として、長野県では第2期特定鳥獣保護管理計画（2006～10年度）で年間捕獲目標を8300頭（オス2800頭、メス5500頭）とし、5年間で生息数6万1600頭を半数の3万1000頭にする方針を出した。そして南アでは06年の3万300頭を11年には1万4400頭に減らす方針。その結果、06年度は9254頭（オス4587頭、メス4667頭）を、07年度は9941頭（オス4864頭、メス5077頭）を捕獲し、両年とも年間捕獲目標8300頭を達成した。だが、両年ともメスは目標の55

00頭を下回り、評価はまだできない。対策を継続的に進める中で、大雪や寒波による餌不足や移動阻害による自然淘汰が加わればいいのだが、何ともいえない。

高山での被害の進行速度と、駆除による効果の速度の間には大きな開きがある。というのは、効果が現われるまでに数年かかるので、その間に激減してしまう高山植物があるかもしれないからだ。そして何よりも駆除は平地でしかできないから、狩猟者が高山に行くことや国立公園内の狩猟は現実的に不可能だ。だからこそ高山植物

そのものを守る現実的かつ具体的な施策が必要になる。

そうした中で現在②に対しさまざまな対策がとられている。南アでは関係者が、塩見岳途中の三伏峠に防護フェンスを設置したり自発的な高山植物の播種をしている。

また伊那市や長野県、森林管理署などが集まって07年9月に設立した「南アルプス食害対策協議会」

ではこの夏、防護柵を仙丈ヶ岳の標高2600～2700メートル付近の馬ノ背周辺に設置する予定。作業員はネットなどを通じて一般からボランティア延べ約100人を集めると、いう住民参加型の行動。環

境省や信州大学も連携して行なう地域全体での取り組みといつていだろう。時間はかかるが、対策は確実にとられようとしている。

なお最近の調査で、南アのシカは長野県側だけでなく山梨県側からも上がってくることがわかった。国や県など各行政機関が連絡を取り合い、協働して対策に当たることが必要となっている。

山岳関係者に何ができるのか

抜本的な対策は捕獲による密度調整だが、高山への柵の設置や森林整備など関係者が連携すること

で複合的な対策がとられ始めた。

従事者だけでなく、山岳環境保全や観光資源の面から地域全体で対策がとられるようになつたのだ。

しかし高山に関しての取り組みはほんの一部の高山地域のみで、効果のほどは実際にはわからない。

高山という特殊な場所だけに行政や地域住民だけでなく、山岳関係者もぜひ関心を持ち真剣にその対策を考えたいものだ。

シカは何も悪くない

シカの山岳地域への進出は、サルやキツネも含めた生き物と自然および山岳環境全体の問題。どうしてこうなったのか、これからどうするのか、南アの高山植物がさらなる大打撃を受けるその前に、そして北アなどの山域にシカが進出する前に、一日も早くそれぞれの関係者が横断的に対策を検討し、行動することが重要だ。

忘れてはならないのは、シカが増えたのは人間のせいであるという点。シカにとつてはいい迷惑だ。私たちのライフスタイルや生き方そのものについても考える必要に迫られている。そのことを動物や自然、そして山が教えてくれる。



翌日、快晴の上高地で穂高をバックに記念撮影

山研運営委員会

徳本峠越えとウェ斯顿祭

5月31日～6月1日、新会員のための企画「徳本峠越えとウェ斯顿祭」に参加した。初めての徳本峠越え、初めてのウェ斯顿祭への参加、心がはやる。

31日、雨中の谷の水量は厚く深く濃い縹色の早い流れであった。

ここからが登山道だ。よく手入ればされているが、所どころ崩壊箇所もあり、積雪や雪崩の凄さを思う。徳本峠に14時15分着。風雨吹きすさぶなか、写真で見覚えのある徳本峠小屋は、残雪をしたがえズンと建っていた。視界ゼロ、寒くてすぐ出発、先を急ぐ。急峻な雪渓を一気に下降して、明神の出合に着いたのは16時過ぎだった。

ニリンソウの純白の大群落にしばし心憩う。梓川の流れに後押しされながら上高地へと足を運ぶ。17時、山研に到着。山研の皆さ



んは、全身ずぶぬれの我われに乾燥室、風呂、濡れた靴のための新聞紙まで用意してくれた。

入浴後、待ちに待つ懇親会。テーブルには豪華な料理とビールが並ぶ。坂本シェフや内野管理人のアットホームな雰囲気に、疲れきった心身はたちまち元気を回復。それにしても今日はよく歩いた、ほぼ11時間の歩行であつた。

翌朝5時前の河童橋は、薄氷が張っていたがガスはぐんぐん消え失せ群青の空が展開、素晴らしいお祭り日和となる。昨日の雨とは一変、緑がキラキラと暖かい。参加者は300人前後になろうか。

定刻10時、開会の挨拶、小学生の澄んだ歌声がのどかに流れる。宮下会長の格調高い挨拶、黙祷、献花、講演と実際に手際よくスマーズに進行する。

上高地に氷河はあつたかとの問い合わせ。この真下にもあつたかもしれないとの小疇先生の講演に思わず足元を見ると、隣の人も同じマリした。五千尺ロッヂの豪勢な午餐会、錚々たる名士、すべてに行き届いた手配と配慮にただただ頭が下がる思いであつた。

この「第62回ウエストン祭」は格調高く洗練されており、心から万雷の拍手を贈る。雨と晴れの大屯山師を偲んだ価値ある有意義な2日間を、私は忘ることはないだろう。最後に、企画し、お世話いただいた皆様に感謝申し上げます。

(秋山 泉)

科学委員会 探索山行　富士須山古道 を下る

科学委員会主催の探索山行が、6月14日、15日に講師4名と46名の参加者によって開催された。梅雨の最中、期待以上の晴天に恵まれて、富士山周辺の地形、植生などの講義を受け、山を歩き、充実した2日間となつた。

裾野インターに向かうバスの中では、レクチャーを受けた。明大付属高校の由井先生からは、古い火山で侵食が進んだ愛鷹山脈、越前岳の地質の話を伺った。石岡慎介会員は、廃道となつた富士山須山古道が先人達の努力で復活したいきさつと思いを語ってくれた。

翌日はバスで新五合目に上がり、正面に見える富士山の宝永火口を見る、越前岳にて



正面に巨大な富士山の宝永火口を見る、越前岳にて

宝永山を目指した。夜中に雨が降り、歩き出しは霧の中だつたが、すぐに晴れ上がつた。火口入口で由井先生の話を聞いて山頂に。昼食ののち、増沢研究室の大学院生富田美紀さんが森林限界の植物たちがどうやって生き残ろうとしているか、という話をしてくれた。草や木の独特な仕組みには驚く。宝永火口からは、須山古道をバスの待つ水ヶ塚公園に下山。急に天気は悪くなり、霧の流れる古道を高度が下がるにつれて変わる植生を楽しみながら歩いた。

(米倉久邦)

N
東
—
—
S
西
—
—
南
北

丹沢のヤマビル

祖父川精治

丹沢の最高峰は蛭ヶ岳（1673メートル）、山名がヒルと名づけられたように周辺地域には昔からヤマビルが生息していた。主に早戸川流域でその範囲は極めて限られてきた。その後、生息地域は山岳地帯から周辺の森林や山里へと分布を次々に広げてきている。最近の情報によると新たに西方の松田、山北町の一部でも確認されるようになってきた。

これまで、ヤマビルの吸血被害を受ける人たちは主に山林事業や狩猟、登山者に限られていた。それが永年住み暮らす住居周辺や茶烟、休耕田畠等へも生息域が拡大し、各市町村の住民からはヤマビル駆除の苦情が多く寄せられて

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

すべてのヤマビルを駆除するのは不可能である。防除効果と環境への配慮影響を調査するため、2種類の薬剤を用いて現場実証試験を行なっている。また、シカの計画的な捕獲と防御柵の設置、ヤマビルが好む湿地を作らない森林保全や荒地の除草等など総合的な対策が必要だとしている。

神奈川県では事態を重く見て、

平成19年度から2カ年計画で「ヤマビル対策事業」を立ち上げて取り組みを開始した。20年6月、神

奈川県厚木合同庁舎で、中間報告としてのヤマビル対策事業報告会を開催した。松沢県知事も討論へ参加、それだけに県民に対する事態の重要性を強く感じたのである。

出席はヤマビルの研究者、大学や県の自然環境、衛生、農林、畜産、農政、緑政、地域総合等各専門家

らで、彼らから調査報告があつた。ヤマビルが吸血したDNA検査の結果、取り付かれて移動運搬役となるのは次のとおりである。二ホンジカ46隻、イノシシ32隻、以下タヌキ、カモシカ、サル、ヒト、キジの順。

発掘された辻村伊助の旧蔵本

田畠眞一

辻村伊助といえば『スウェイス日記』の著者として知られる。彼は本会創立期の会員だった。しかし、大正12年9月1日の関東大震災に遭い、夫人と3児とともに不慮の死をとげた。

本会図書室には彼の旧蔵本だった『日本風景論』（志賀重昂・著）が所蔵されている。本書は、高野鷹藏による解説文と署名が入り、稀観本中の稀観本だ。高野は本会の創立発起人として活躍、後に副会長も務めた。

私は高野の解説文と署名を判読

「此本は辻村伊助の手沢本である。彼れと共に一度地下に埋没されたものであるが、後掘り出されたものである。一九四九年九月 高野 鷹藏」

感慨深い一本だ。なお、本書の受け入れ年月日は明らかで、本書には「一九四九年九月一四日」とゴム印が押されている。だから、高野は署名などをした後、いち早く本会に寄贈したのだろう。こうした経緯も偲ばれる。

支部

だより



全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとリポート
します。

秋田支部

二つの虚空蔵山と巨木巡り

4月27日、秋田支部本年度最初

の山行は、足慣らしも兼ねた里山

巡り、由利本荘市にある二つの虚空蔵山で始まつた。筆者とメタボな会員2人は、虚空蔵山がよく見える鳥田目集落の橋の前で、由利

本荘市在住の安藤名譽顧問より付近の山の状況を聞きながら、会員諸兄の到着するのを待つていた。

本日の参加者全員は、秋田名物スパイク長靴に買物袋を持ち完全な山菜採りの装備だ。

8時25分出発。道は前日の雨で少しうかるんでいる。低山侮りが

遠くは霞んでいるが、360度の展望が広がり、八塩山をはじめとする出羽丘陵の山々が確認された。鳥海山は厚い雲に覆われ、裾野がかすかに見えるだけだった。

二つの虚空蔵山は旧東由利町

にある。登山口に地主がいて、登る場合は道路脇の小祠の前にある御手洗で洗い清めてから登拝して下さいとのこと。手を洗つて穢れを祓い、杉林の中の一直線の急な登りをたどり、右斜面がスッパリと切れ落ちている尾根道を過ぎる

いる。上部に出ると太さも手ごろなアイコがあり、それぞれ道を

それで、てんでんばらばらにアイ

コを採りながら山頂を目指す。途中、高貴な花・シラネアオイが群落で咲いていた。朽ちた階段を登り、細い尾根をたどって神社前に出ると穏やかな登りとなり、やがて車道と合流し、すぐ山頂である。

9時25分、無線中継塔が立つ三等三角点の山頂に着いた。

なんもりとした藪の山頂で展望はなかつた。登りはわずか15分ほどだつた。お参り後、登山口に戻り、総勢18名で食事をしていると、突然、空模様がおかしくなり、急に風雨となつた。止みそうにないので食事を中断して、次の目標の巨木巡りに向かう。

最初に訪れた「岩館のイチヨウ」は地元民の信仰の篤い巨樹である。この日は、まだ葉が出ておらず、木の大きさがよく分かつた。次は森の巨人たち百選の「法内の八本杉」へ。駐車場に着いたとたんに強い雨が降ってきたが、虚空蔵菩薩の功德によりすぐに止んだ。10分程歩くと他の杉を圧倒して聳え

ている八本杉が見えた。数本が成長して根元で癒着した合体木らしく、7本のうち1本は枯れているが見事な巨木だ。次は、かすみ温泉の裏にある「かすみ桜」へ。種類は山桜だが幹が途中で折れていた。ごつごつとした肌が樹齢を感じさせ樹精も旺盛で、花は今が盛りと咲いていた。



旧東由利町の虚空蔵山山頂にて

東海支部

第11回東海岳人写真展

3月16日より23日までの6日間、

東海支部恒例となつた東海岳人写真展「山と自然のパフォーマンス」を、名古屋市の中区役所の市民ギャラリーで開催した。今回の開催にあたり、絵画併設を中日新聞社の共催、中部日本放送より後援のご協力をいただいた。

出展数は写真76点、絵画11点で
支部員と支部友会員56名が参加出
品した。前回に引き続き皇太子殿
下の作品を展示させていただく光
栄に浴した。また、故・橋本龍太
郎当支部最高顧問の作品もご家族
のご協力で展示させていただくこ
とができた。

あたり羽田栄治資料映像委員長にはご尽力をいただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。

(箕浦靖夫)

春期小集会——蕎麦粒山

5月25日、雨の予報で参加者が減ってしまい集合場所の道の駅「星のふる里ふじはし」に集まつたのは総勢7人。

遠征活動の記録として、一昨年
ローツェ南壁の冬期初登攀に成功
した時の写真、昨年のインド・ヒ
マラヤ遠征でシャルミリ峰登頂に
成功した時の写真、併せて七大陸
最高峰に登頂成功した石川富康氏
の写真を特別コーナーを設けて紹
介した。

坂内広瀬に向かい、西又谷合流点に7時半到着。心配していた徒渉箇所には半切丸太の橋が架かっていた。橋を渡り、榎道を登ると

一般作品の写真と絵画は、登山者としての目線で捉えているものが多く、来場者の共感を呼んだ。期間中の来場者は約3000人に及び、盛況であった。また、この写真展を通じ、支部活動の遠征登山、一般向け登山学校の開催、ハンドダイキャップを持つ方々への登山支援、猿投の森づくりでの自然保護など、福井の山支局の活動も紹介された。

保護など幅広い当支部の活動を紹介することもでき、とても有意義な行事となつた。



著者紹介

く快適に先に進む。新緑の中に房状の白花を咲かせたウワミズザクランが目を楽しませてくれる。

1075メートル。ピークから大きく右に曲がつて緩やかに下ると、鞍部から頂上までは300メートルの登りだ。ナシの大木があちこち目につく。太かつた尾根が細くなるにつれ勾配も急になってきた。尾根筋は灌木に変わりササが密生しているため、北斜面のシャクナゲを切り拓いた道を切り株につかり、体を引き上げながら高度を稼ぐ。チラホラと咲き残るシャクナゲに一時

の安らぎを覚えながら登る。やがて、木々の葉が透けだし頂上に差いた。頂上は以前と比べ、より低

枯れ葉色の草木が散らばっている
杉植林地の縁に沿つて登つていく
が、急登ですぐに汗が噴き出し、や
むを得ず早々に休憩する。休んで
いる間に人の匂いを嗅ぎつけたの
か隣の人の背中にヒルが着いてい
るではないか。ヒルに吸いつかれ
ては大変だ。どうしてヒルに登る

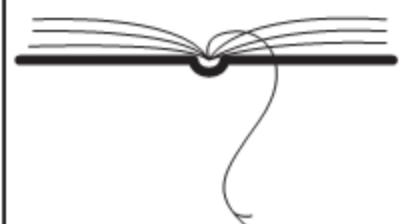
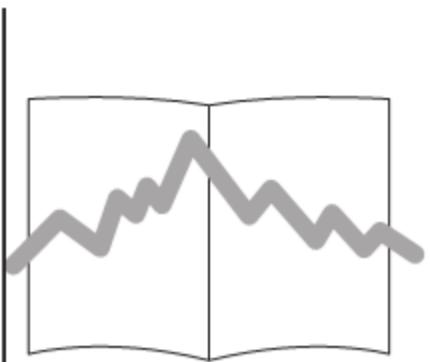
では大麥と休ます喘ぎながら登る
周囲がブナの大木に変わつてく
ると、暖やかな登のとなり田村竟

ると、緑やかな登にいたり林地尾根に着いた。太い尾根筋は二次林の広葉樹が林立し、疎らのササも刈り払われ、アップダウンもな

下りは同じ道をたどるより周遊しようと意見がまとまり、コソムギの肩を目指し踏み出す。登山者が少ないのか踏み跡はあるものの雨滴を含み伸び放題の枝葉に邪魔され、たちまちのうちに下半身が絞れるほど濡れてしまった。痩せ尾根を下り、廃道と化した長い林道歩きで拾つたのかスパツツの内側にヒルが6匹ついていた。

(今峰正利)

図書紹介



『山の本 岁時記』

大森久雄・著



2008年6月
ナカニシヤ出版刊
四六判 173頁
定価 2100円

あとがきに「季節の山を題材とする山の文章の一種のアンソロジー」ということになり、著作というよりも編著作というべきものになつた」と著者は書く。

なるほど前二作に比べると、山の本の作者に語らせる部分が大きくなっているが、たとえアンソロジーだとしても、それをひとつ

長年にわたり編集者として山岳書に関わってきた著者は、山と山の本が織りなす世界を、これまでに『本のある山旅』(1996年、山と渓谷社)『山の旅 本の旅』(2007年、平凡社)として世に出しており、ここで紹介するのが同じ流れをくむ3冊目の本となる。

今回の本では「歳時記」という題名が示すように、月ごとに章を立て、日本の山の纖細かつ劇的な季節の移ろいを、古今の広範な山の本の中から著者が選りすぐつた文章に、著者自身の想いを重ねて描いてゆく。

現代のネット社会はひとりよがりな書き手を増やすばかりで、心ある読み手を激減させている。すぐれた読み手でなくして、なんでも失われつつある読む力を取り戻すためには、名文に親しむしかない。時を経て残った文章にそれが多いのは当然で、山の本の世界でもまつたく同様である。著者の、前二作に今回の本を加えた三部作は、著者自身の文章の妙を味わえるのはもちろん、山の名著へと私たちをいざなう絶好の羅針盤となるだろう。

(長澤洋)

田代博・著

『知つて楽しい山岳展望』



2007年12月
新日本出版社刊
四六判 190頁
定価 1680円

「山に登る魅力は?」との問いに人それぞれの答えがあるだろう。

筆者にも多くの答えはあるが、やはり山から見る展望、山岳展望の雄大さを第一にあげると思う。「展望のない雨の日に登るのもまた一

他者の文章中に我が意を得ることが読書の喜びのひとつだが、この本には肯定的な意味での著者のそれが横溢している。一方に、他の者を否定的にみて喝采を浴びている本が少なくないことを思うとき、著者の本の幸福がなお貴重に感じられるのである。

著者自身の体験などもまじえた「体験的山岳展望の楽しみ」から「知つておきたい基礎知識」「パソコン、インターネットの活用」「展望写真を撮る、スケッチする」「山岳展望をめぐる話題」で一通りのノウハウが習得できる。さらに「町から、乗り物から楽しむ山岳展望」

興」と言われば否定はしないが、展望の得られる日に比べれば楽しみが半減することは間違いない。

筆者が登山を始めた頃、本書の著者である田代博さんと藤本一美さんとの共著『展望の山旅』(実業日本社刊)で「山座同定(山の名を判定すること)」という言葉を知った。両氏の山頂からのスケッチ図をコピーしてはせつせと山に通い、山頂で開いては実際の展望と見比べ山の名前と形を覚えていった。

著者は高校で地理の教鞭をとりながら、山座同定や展望図作成の方法について研究を重ねてきた。

またパソコンの普及を活用してネット上に「山と展望と地図のフォーラム」を立ち上げ、山岳展望を登山のひとつジャンルとして築き上げた。その集大成として初心者にもわかりやすく書かれた入門書が本書であろう。

『山の本 岁時記』

大森久雄・著



2008年6月
ナカニシヤ出版刊
四六判 173頁
定価 2100円

あとがきに「季節の山を題材とする山の文章の一種のアンソロジー」ということになり、著作というよりも編著作というべきものになつた」と著者は書く。

なるほど前二作に比べると、山の本の作者に語らせる部分が大きくなっているが、たとえアンソロジーだとしても、それをひとつ

長年にわたり編集者として山岳書に関わってきた著者は、山と山の本が織りなす世界を、これまでに『本のある山旅』(1996年、山と渓谷社)『山の旅 本の旅』(2007年、平凡社)として世に出しており、ここで紹介のが同じ流れをくむ3冊目の本となる。

今回の本では「歳時記」という題名が示すように、月ごとに章を立て、日本の山の纖細かつ劇的な季節の移ろいを、古今の広範な山の本の中から著者が選りすぐつた文章に、著者自身の想いを重ねて描いてゆく。

現代のネット社会はひとりよがりな書き手を増やすばかりで、心ある読み手を激減させている。すぐれた読み手でなくして、なんでも失われつつある読む力を取り戻すためには、名文に親しむしかない。時を経て残った文章にそれが多いのは当然で、山の本の世界でもまつたく同様である。著者の、前二作に今回の本を加えた三部作は、著者自身の文章の妙を味わえるのはもちろん、山の名著へと私たちをいざなう絶好の羅針盤となるだろう。

(長澤洋)

田代博・著

『知つて楽しい山岳展望』



2007年12月
新日本出版社刊
四六判 190頁
定価 1680円

「山に登る魅力は?」との問い合わせる人それぞれの答えがあるだろう。

筆者にも多くの答えはあるが、やはり山から見る展望、山岳展望の雄大さを第一にあげると思う。「展望のない雨の日に登るのもまた一

『山の本 岁時記』

大森久雄・著



2008年6月
ナカニシヤ出版刊
四六判 173頁
定価 2100円

あとがきに「季節の山を題材とする山の文章の一種のアンソロジー」ということになり、著作というよりも編著作というべきものになつた」と著者は書く。

なるほど前二作に比べると、山の本の作者に語らせる部分が大きくなっているが、たとえアンソロジーだとしても、それをひとつ

長年にわたり編集者として山岳書に関わってきた著者は、山と山の本が織りなす世界を、これまでに『本のある山旅』(1996年、山と渓谷社)『山の旅 本の旅』(2007年、平凡社)として世に出しており、ここで紹介のが同じ流れをくむ3冊目の本となる。

今回の本では「歳時記」という題名が示すように、月ごとに章を立て、日本の山の纖細かつ劇的な季節の移ろいを、古今の広範な山の本の中から著者が選りすぐつた文章に、著者自身の想いを重ねて描いてゆく。

現代のネット社会はひとりよがりな書き手を増やすばかりで、心ある読み手を激減させている。すぐれた読み手でなくして、なんでも失われつつある読む力を取り戻すためには、名文に親しむしかない。時を経て残った文章にそれが多いのは当然で、山の本の世界でもまつたく同様である。著者の、前二作に今回の本を加えた三部作は、著者自身の文章の妙を味わえるのはもちろん、山の名著へと私たちをいざなう絶好の羅針盤となるだろう。

(長澤洋)

田代博・著

『知つて楽しい山岳展望』



2007年12月
新日本出版社刊
四六判 190頁
定価 1680円

「山に登る魅力は?」との問い合わせる人それぞれの答えがあるだろう。

筆者にも多くの答えはあるが、やはり山から見る展望、山岳展望の雄大さを第一にあげると思う。「展望のない雨の日に登るのもまた一

『山の本 岁時記』

大森久雄・著



2008年6月
ナカニシヤ出版刊
四六判 173頁
定価 2100円

あとがきに「季節の山を題材とする山の文章の一種のアンソロジー」ということになり、著作というよりも編著作というべきものになつた」と著者は書く。

なるほど前二作に比べると、山の本の作者に語らせる部分が大きくなっているが、たとえアンソロジーだとしても、それをひとつ

長年にわたり編集者として山岳書に関わってきた著者は、山と山の本が織りなす世界を、これまでに『本のある山旅』(1996年、山と渓谷社)『山の旅 本の旅』(2007年、平凡社)として世に出しており、ここで紹介のが同じ流れをくむ3冊目の本となる。

今回の本では「歳時記」という題名が示すように、月ごとに章を立て、日本の山の纖細かつ劇的な季節の移ろいを、古今の広範な山の本の中から著者が選りすぐつた文章に、著者自身の想いを重ねて描いてゆく。

現代のネット社会はひとりよがりな書き手を増やすばかりで、心ある読み手を激減させている。すぐれた読み手でなくして、なんでも失われつつある読む力を取り戻すためには、名文に親しむしかない。時を経て残った文章にそれが多いのは当然で、山の本の世界でもまつたく同様である。著者の、前二作に今回の本を加えた三部作は、著者自身の文章の妙を味わえるのはもちろん、山の名著へと私たちをいざなう絶好の羅針盤となるだろう。

(長澤洋)

田代博・著

『知つて楽しい山岳展望』



2007年12月
新日本出版社刊
四六判 190頁
定価 1680円

「山に登る魅力は?」との問い合わせる人それぞれの答えがあるだろう。

筆者にも多くの答えはあるが、やはり山から見る展望、山岳展望の雄大さを第一にあげると思う。「展望のない雨の日に登るのもまた一

『山の本 岁時記』

大森久雄・著



2008年6月
ナカニシヤ出版刊
四六判 173頁
定価 2100円

あとがきに「季節の山を題材とする山の文章の一種のアンソロジー」ということになり、著作というよりも編著作というべきものになつた」と著者は書く。

なるほど前二作に比べると、山の本の作者に語らせる部分が大きくなっているが、たとえアンソロジーだとしても、それをひとつ

長年にわたり編集者として山岳書に関わってきた著者は、山と山の本が織りなす世界を、これまでに『本のある山旅』(1996年、山と渓谷社)『山の旅 本の旅』(2007年、平凡社)として世に出しており、ここで紹介のが同じ流れをくむ3冊目の本となる。

今回の本では「歳時記」という題名が示すように、月ごとに章を立て、日本の山の纖細かつ劇的な季節の移ろいを、古今の広範な山の本の中から著者が選りすぐつた文章に、著者自身の想いを重ねて描いてゆく。

現代のネット社会はひとりよがりな書き手を増やすばかりで、心ある読み手を激減させている。すぐれた読み手でなくして、なんでも失われつつある読む力を取り戻すためには、名文に親しむしかない。時を経て残った文章にそれが多いのは当然で、山の本の世界でもまつたく同様である。著者の、前二作に今回の本を加えた三部作は、著者自身の文章の妙を味わえるのはもちろん、山の名著へと私たちをいざなう絶好の羅針盤となるだろう。

(長澤洋)

田代博・著

『知つて楽しい山岳展望』



2007年12月
新日本出版社刊
四六判 190頁
定価 1680円

「山に登る魅力は?」との問い合わせる人それぞれの答えがあるだろう。

筆者にも多くの答えはあるが、やはり山から見る展望、山岳展望の雄大さを第一にあげると思う。「展望のない雨の日に登るのもまた一

『山の本 岁時記』

大森久雄・著



2008年6月
ナカニシヤ出版刊
四六判 173頁
定価 2100円

あとがきに「季節の山を題材とする山の文章の一種のアンソロジー」ということになり、著作というよりも編著作というべきものになつた」と著者は書く。

なるほど前二作に比べると、山の本の作者に語らせる部分が大きくなっているが、たとえアンソロジーだとしても、それをひとつ

長年にわたり編集者として山岳書に関わってきた著者は、山と山の本が織りなす世界を、これまでに『本のある山旅』(1996年、山と渓谷社)『山の旅 本の旅』(2007年、平凡社)として世に出しており、ここで紹介のが同じ流れをくむ3冊目の本となる。

今回の本では「歳時記」という題名が示すように、月ごとに章を立て、日本の山の纖細かつ劇的な季節の移ろいを、古今の広範な山の本の中から著者が選りすぐつた文章に、著者自身の想いを重ねて描いてゆく。

現代のネット社会はひとりよがりな書き手を増やすばかりで、心ある読み手を激減させている。すぐれた読み手でなくして、なんでも失われつつある読む力を取り戻すためには、名文に親しむしかない。時を経て残った文章にそれが多いのは当然で、山の本の世界でもまつたく同様である。著者の、前二作に今回の本を加えた三部作は、著者自身の文章の妙を味わえるのはもちろん、山の名著へと私たちをいざなう絶好の羅針盤となるだろう。

(長澤洋)

田代博・著

『知つて楽しい山岳展望』



2007年12月
新日本出版社刊
四六判 190頁
定価 1680円

「山に登る魅力は?」との問い合わせる人それぞれの答えがあるだろう。

筆者にも多くの答えはあるが、やはり山から見る展望、山岳展望の雄大さを第一にあげると思う。「展望のない雨の日に登るのもまた一



『山と人』第17号(2008)

河本卓生・編

高速道などの車窓展望例を取り上げ、「展望の山旅モデルコース」では、ツアーディナー登山コースのなかから決定版といえるコースをいくつか紹介している。なお、本書はそのテーマ上、パソコンやインターネット、デジタルカメラについてもページ数がさかれており、これらの電子機器の知識がない方には理解がむずかしいかもしれない。

東京からは富士山が眺められるが、首都からその国の最高峰を見た国土を持つ私達だからこそ、ぜひそれを大切にして楽しみたいものだと思う。(木根康行)

では各地の望岳都からの展望。中央線、大糸線、小海線、新幹線、高速道などの車窓展望例を取り上げ、「展望の山旅モデルコース」では、ツアーディナー登山コースのなかから決定版といえるコースをいくつか紹介している。なお、本書はそのテーマ上、パソコンやインターネット、デジタルカメラについてもページ数がさかれており、これらの電子機器の知識がない方には理解がむずかしいかもしれない。

東京からは富士山が眺められるが、首都からその国の最高峰を見た国土を持つ私達だからこそ、ぜひそれを大切にして楽しみたいものだと思う。(木根康行)

部外者にとつて興味深い記事は第2部であろう。2003年、同大山岳会は秘境カシリガルボ山群の最高峰、ルオニイ峰^{6805メートル}に挑んだ。登頂は成らなかつたが、この山群に足を踏み入れた登山隊は神戸大学隊が初めてである。本会機関誌『山岳』(九九巻、04年)にも報告が載っている。

ところで、本書のルオニイ峰登山報告は山岳部長だった平井一正教授が自ら執筆している。つねづね思っていたことだが、神戸大学山岳部は日本(あるいは世界)有数の岳人を部長に戴くという、まことに羨ましい幸運に恵まれている。平井氏はヒマラヤの処女峰4座を踏んだ第一級のクライマーであり、かつては氷河学の泰斗、本会名誉会員の田中薰氏が山岳部長を務め、同大による海外遠征の芽

である。1・亡き川上太郎先生を偲んで、2・東チベットへの挑戦、3・氷ノ山千本杉ヒュッテ改築工事の報告、4・ボリビア遠征誌上討論について、5・山行・紀行・随想、6・神戸大学山岳会・山岳部海外遠征小史、7・活動報告の七部構成。

部外者にとつて興味深い記事は第2部であろう。2003年、同大山岳会は秘境カシリガルボ山群の最高峰、ルオニイ峰^{6805メートル}に挑んだ。登頂は成らなかつたが、この山群に足を踏み入れた登山隊は神戸大学隊が初めてである。本会機関誌『山岳』(九九巻、04年)にも報告が載っている。

ところで、本書のルオニイ峰登山報告は山岳部長だった平井一正教授が自ら執筆している。つねづね思っていたことだが、神戸大学山岳部は日本(あるいは世界)有数の岳人を部長に戴くという、まことに羨ましい幸運に恵まれている。平井氏はヒマラヤの処女峰4座を踏んだ第一級のクライマーであり、かつては氷河学の泰斗、本会名誉会員の田中薰氏が山岳部長を務め、同大による海外遠征の芽

を育んだ。さらに、第一次マナスル隊の登攀隊長として活躍した高木正孝氏(愛称・チャカ)も同大山岳部の輝ける部長であつた。

名著『パタゴニア探検記』で一躍世に知られた高木氏が、1962年に南太平洋上で消息を絶ったのはご存知の通り。この高木氏の「登山理念」の解釈をめぐり、同大山岳会が大揺れに揺れたらしくことが、『山と人』前号(1995年発行)で明らかにされた。当時、本紙の図書紹介欄がこの問題に触れたこともあり、同大山岳会の部内誌で5年にわたり活発な討論が交わされたという。その経過を報告したのが第4部である。また第5部に寄せられた随想にも論争の余韻が強弱とりませて漂っている。

それらを読んで筆者が想起したのは、唐突かもしれないがレーニン死後のソ連共産党内部における熾烈な論争である。廟に祀られたレーニンは自分の与り知らぬ「レーニン主義」に憤激し、七転八倒したにちがいない。田口二郎氏から「チャカ」の話をよく聞いていた私は、こんな思いに駆られた。チャカを偲びつつ、あれこれ思う。

(平井吉夫)

図書受入報告 (2008年6月)

著者	書名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈/購入別
大賀壽二	好日山荘往来(上巻)	307pp/20cm	ナカニシヤ出版	2007	出版社寄贈
大賀壽二	好日山荘往来(下巻)	348pp/20cm	ナカニシヤ出版	2008	出版社寄贈
大賀壽二	好日山荘往来(下巻)	348pp/20cm	ナカニシヤ出版	2008	著者寄贈
東北大学山の会(編)	新たなる高みへ(本編)――東北大学山岳部50年のあゆみ	466pp/26cm	東北大学山岳部・山の会	2008	発行者寄贈
東北大学山の会(編)	新たなる高みへ(資料編・DVD付)――東北大学山岳部50年のあゆみ	293pp/26cm	東北大学山岳部・山の会	2008	発行者寄贈
高櫻英輔(編)	2008年度日本登山医学シンポジウムプログラム・抄録集	104pp/30cm	日本登山医学シンポジウム事務局	2008	発行者寄贈
織田善夫(編)	シルクロード・カラコルムの山旅――カシュガルからナンガバルバット山麓へ	46pp/30cm	中京山岳会	2008	発行者寄贈
中川博樹・泉久恵	文豪が愛した百名山	221pp/21cm	東京新聞出版局	2008	出版社寄贈
黒部市教育委員会(編)	語りつぎたい黒部人――黒部に足あとを残した人々	90pp/30cm	黒部市教育委員会	2008	発行者寄贈
AGS-J資格審査委員会(編)	Mountain Rescue Technique AGS-J Guide Manual Chapter 4 (5th Ed.)	164pp/30cm	日本アルパインガイド協会	2008	発行者寄贈
Cally Henderson(ed.)	The Journal of the Mountain Club of South Africa No.109(2006)	196pp/26cm	Mountain Club of South Africa	2007	発行者寄贈
Tamotsu Nakamura	Die Alpen Tibets —Ostlich des Himalaya	287pp/30cm	Pedro Detjen Verlag	2007	発行者寄贈



平成20年度第3回(6月度)理事会

日時 平成20年6月11日 18時30分～21時

場所 日本山岳会会議室

【出席者】 鮫坂・神崎各副会長、

宮崎・吉永・成川各常務理事、齋藤・

藤井・石橋・古野・太田・山川・

岡部各理事、深川・竹中各監事、

河野常任評議員、神長会報編集委員長

【委任】 宮下会長、堀井・相馬理事

【欠席】 日下田・近藤各常任評議員

委員長 内田博 (7531)

事務局 宮崎紘一 (5751)

委員 吉永英明 (7045)、高

原三平 (7949)、森武昭 (9620)、佐野忠則 (12887)

【審議事項】
1・支部長の交代承認申請につい

て (宮崎)

①富山支部 木戸繁良氏 (579)

1) から山田信明氏 (9899)

②福岡支部 中山健氏 (1030)

9) から副島勝人氏 (8125)

(承認)

4・第9回ライチョウ会議新潟大
会の後援について (宮崎)
市立大町山岳博物館内のライチ
ョウ会議事務局から例年どおり後
援依頼申請があつた (5月30日付)

(承認)

2・支部規約の改正 (宮崎)

福岡支部規約のうち、副支部長

の定数を1名から「1名または2名」に改正 (第3項) すること及び役員任期規約から副支部長の再々任の場合の規定を除外する (第10項)。

(承認)

3・定款 (案) 検討委員会 (仮)

(宮崎)

定款 (案) 検討委員会 (仮) の委員に次の者を選任。

委員長 内田博 (7531)

事務局 宮崎紘一 (5751)

委員 吉永英明 (7045)、高

原三平 (7949)、森武昭 (9620)、佐野忠則 (12887)

(承認)

4・第9回ライチョウ会議新潟大
会の後援について (宮崎)

市立大町山岳博物館内のライチ
ョウ会議事務局から例年どおり後
援依頼申請があつた (5月30日付)

(承認)

5・「会員名簿」作成編集報告 (宮

崎)

11月配布を目途に準備作業に着手している。サイズをB5からA4に変更すること及び掲載項目等

【報告事項】

1・支部総会報告 (宮崎)

富山支部 (4月25日)、千葉支部

(5月11日)、岩手支部 (4月6日)、

福岡支部 (5月17日) の開催報告

があつた。

2・資料寄託期間の更新のお礼 (吉永)

市立大町山岳博物館から借用証書を添えて資料寄託期間更新に対する礼状が届いた (4月25日付)。

3・ウエ斯顿祭報告 (宮崎、齋藤)

6月1日の式典には宮下会長、

宮崎常務理事および岡部理事が出

席し、信濃支部から礼状が届いた

(6月5日付)。また5月31日は兩

天ではあつたが、徳本峠越えが無

事に行なわれた。

4・(財)自然公園財団平成20年度第1回評議員会開催について (宮崎)

6月11日に開催通知があつたが、

宮下会長 (同財団評議員) は都合

により欠席。

5・「会員名簿」作成編集報告 (宮

崎)

上高地山岳研究所の管理人内野慎一氏が全く個人の立場で韓国人

登山者のため韓国語によるホームページを開き、日本の登山マナー等を紹介。韓国の登山誌などにも紹介され話題になつてゐる。

6・新公益法人制度に関する説明会案内 (吉永)

文部科学省競技スポーツ課から

6月27日に岸記念体育館における説明会の事務連絡が届いた (5月

29日付)。吉永常務理事、藤本慶光評議員 (公益社団法人化プロジェクトチーム) が参加予定。

7・山岳4団体三役懇親会について (神崎)

日本ヒマラヤ協会 (今年度幹事

当番)

から7月9日開催の案内が届いたが、当山岳会の理事会等と

かち合うため日程調整を依頼 (出

欠は現時点では保留)。

8・韓国人登山者のためのHP (宮崎)

上高地山岳研究所の管理人内野

慎一氏が全く個人の立場で韓国人

登山者のため韓国語によるホー

ムページを開き、日本の登山マナ

ー等を紹介。韓国の登山誌などにも

紹介され話題になつてゐる。

9・6月号会報『山』編集報告 (神長)

7月14日、八木原園明氏が語る

「群馬県山岳連盟のヒマラヤへの挑戦」が当ルームで開催される

について説明があつた。

(図書委員会主催)。

11・08年度日本登山医学会学術集会（宮崎）

5月31日、6月1日に第28回日本登山医学シンポジウムが宇奈月温泉にて開催。日本登山医学会会長から礼状が届いた(6月4日付)。

ルーム日誌
6月

会員異動 (6月)	
会員名	異動内容
上原泰行 (9283)	上原泰行 (9283) 08 . 6 . 3
田邊正英 (2246)	田邊正英 (2246) 08 . 6 . 3
渡辺千代藏 (3209)	渡辺千代藏 (3209) 08 . 6 . 3
桃井昌治 (4154)	桃井昌治 (4154) 08 . 6 . 3
松村 寿 (6292)	松村 寿 (6292) 08 . 6 . 3
関口 宏 (8869)	関口 宏 (8869) 08 . 6 . 3
鳩谷貴雄 (10798)	鳩谷貴雄 (10798) 08 . 6 . 3
峯村 隆 (11061)	峯村 隆 (11061) 08 . 6 . 3
神戸純成 (11171)	神戸純成 (11171) 08 . 6 . 3
伴野榮子 (11446)	伴野榮子 (11446) 08 . 6 . 3
深沢綾子 (11864)	深沢綾子 (11864) 08 . 6 . 3
高坂 清 (12498)	高坂 清 (12498) 08 . 6 . 3
山口眞美 (13023)	山口眞美 (13023) 08 . 6 . 3
鈴木碩也 (14089)	鈴木碩也 (14089) 08 . 6 . 3
岩手	岩手
京都	京都

会員名簿発行のお知らせ

住所変更や個人情報の削除希望など、8月15日までにお届けを

日本山岳会の会員名簿200
8年版を、10月中旬に発行すべく
作業中です。お名前の文字や最
新の住所、電話番号などにつき
万全を期するため、住所変更な
どの受付けの締切りを1カ月遅
らせ、8月15日までとしました。
変更事項は期日までに必ずお届
けください。

どの受付けの締切りを1カ月遅らせ、8月15日までとしました
変更事項は期日までに必ずお届けください。

らセ 8月15日までとしました
変更事項は期日までに必ずお届
けください。

なお、名簿の作成、配布に当たっては、個人情報の保護、管理に十分配慮しますが、適正な取り扱いを定めた規定では「あらかじめ本人からの求めがあつた場合には、名簿から削除しなければならない」とあります。

よつて、名前を含め個人情報の削除をご希望の方は8月15日までに、文書で事務局までご連絡ください。

た場合には、名簿から削除しなければならない」とあります。よつて、名前を含め個人情報の削除をご希望の方は8月15日までに、文書で事務局までご連絡ください。

の削除をご希望の方は8月15日までに、文書で事務局までご連絡ください。

高嶋妙子（14385） 静岡
終身会員 石田要久（6372）

(総務委員会)



インフォメーション

◆第24回全国支部懇談会と記念山行のお知らせ	
	北九州支部
今秋、北九州最高峰の福智山(901メートル)、カルスト台地の平尾台、関門の海を訪ねてみませんか。	
期日 10月11日(土)～12日(日)	
会場 北九州市「ホテル ニュー タガワ」	
日程 ■ 11日(土) 受付 13時、懇談会 15時、懇親会 18時	
■ 12日(日) 記念山行 Aコース ～福智山、Bコース ～平尾台～貫山、Cコース ～関門の歴史散策(横有恒さんの歌碑も訪れます)	
*各コースとも、小倉駅で16時頃解散予定	
定員 200名(会場の都合により先着順)	
費用 2万円(宿泊、懇親会、記念行事)	
*懇親会、記念行事のみの参加も可能(詳細は問合せください)	

申込方法 ①支部一括の場合・各支部担当者に連絡のうえ申し込む。②個人の場合:左記あて、ハガキかFAXで申し込む(折り返し、詳細と振込用紙郵送)。
■ 11日(土) 受付 13時、懇談会 15時、懇親会 18時
■ 12日(日) 記念山行 Aコース ～福智山、Bコース ～平尾台～貫山、Cコース ～関門の歴史散策(横有恒さんの歌碑も訪れます)
*各コースとも、小倉駅で16時頃解散予定
定員 200名(会場の都合により先着順)
費用 2万円(宿泊、懇親会、記念行事)
*懇親会、記念行事のみの参加も可能(詳細は問合せください)

◆第16回山岳写真展「心に映る山々」アルパインフォトクラブ
秋の山研恒例「アルプス民俗音楽とワインの夕べ」を開催します。演奏は永谷義篤さんとヤーガ・ハイスルで、ヨーテルもたっぷりとご堪能ください。連泊し、焼岳登山の計画などいかがでしょう。
日時 9月4日(木)～10日(水) (10時～18時、最終日は14時)
会場 上高地山岳研究所
費用 1万2000円(1泊2食、コンサート代含)
申込・問合 8月末迄に、堀嘉余子(TEL & FAX 03-3330-3169-22)

◆タスマニア クレイドル山トレッキング
島の約3分の1が世界遺産に指定されている自然の宝庫タスマニア。約2万年前の氷河が造ったクレイドル山登山と、ワイングラスガイド付きの壮大な巡査旅行です。
山はどうやって高くなつたか。インドプレートとユーラシアプレートの衝突現場を探勝。ネイチャガイド付きの壮大な巡査旅行です。
◆ヒマラヤ越えチベット——青蔵鉄道12泊13日
山の自然学研究会

●さんけん通信●

「きれいな梓川」と「おいしい善六沢の水」

山研管理人 内野慎一

6月初旬、地元の信濃毎日新聞の見出しに目を引かれました。それは“上高地の梓川、年間通し水質「きれい」”というもので、県松本保健所などによる梓川の水質調査の結果でした。

記事によると〈同保健所は、山小屋のし尿処理が適切に行なわれていることや登山者のマナーが高いことを理由に挙げ、「梓川は1年を通してきれいな水」としている〉とありました。ちなみに河童橋付近は、夏季の大腸菌群数の平均値が100ミリリットル中2.0個であり、国による海水浴場の水質判定基準の最もきれいな「AA」とのこと。ただし飲料水として利用するには大腸菌数がゼロではないので「煮沸が必要」だそうです。一方、冬季では大腸菌群は検出されなかったとのことでした。

さて、山研では西穂側から流れる善六沢の水を利用しています。皆さん「おいしい」というこの「山の水」、水筒に詰めてお土産に持って帰る方も見かけます。ただし、春先の雪解け時期は、一昨



きれいな梓川で遊ぶ子どもたち

年の水害で沢が荒れたことも誘引してか濁りがちです。そのため、水の取り入れには神経を遣います。濁りがひどい時は河童橋近くの水道まで水をもらいに行くこともしばしばでしたが、6月中頃からはすっきり澄んだ本来の水になってきました。

ちなみに、河童橋周辺の水道の水源は、六百山の地中を通って小梨平の片隅で湧き出している清水川です。善六沢の水とは微妙に味が違います。飲み比べてみて、気に入った方の水でお茶をいれたり、水割りを作ったりしてみてはいかがでしょう。

これから暑い夏に向かいます。皆さん、山研にいらした時は「きれいな」梓川にどんどん足を入れてみてください。そして、痛いくらい冷たい水から、槍・穂高の残雪や稜線の涼しい風を想像してみるのも楽しいと思います。「きれいな梓川」と「おいしい善六沢の水」とともに、皆さんをお待ちしています。

◆会報編集委員会より
会報『山』は全国の会員へ向けての情報発信と交流の一環として毎月発行されます。山岳に関わる論説、研究・随想、国内外通信、国内外登山、会務・活動報告、図書、情報などの投稿を中心に編集しております。その一部であるINFORMATION欄についてですが、紙面に限りがある以上、掲載に優先順位をつけるを得ません。理事会、

日時	10月24日(金)～11月5日(水)
コース概要	成田～成都～カトマ
ンズ～ザンムー～ニエラ	ム～シーガル～チヨモラ
ンマBC～シガツエ～ラ	サ～青蔵鉄道～西寧～北
京～成田	
費用	49万8000円（航空燃料
問合	サーチャージ他別途）
船橋明	TEL 0467-321
3011	
定員	20名

■訂正とお詫び

6月(767)号、11ページ2段1行「佐渡大島」は「渡島大島」、3段7行「30名」は「15名」、15行「316メートル」は「319メートル」の誤りでした。訂正して、お詫びします。

◆会報編集委員会より

- 6月号の校了の最中に岩手・宮城内陸地震が発生しました。菊池支部長はじめ岩手支部の方々が被災されたと聞いて、ほんとうに驚きました。小野寺さんからその報告が入り、たまたま投稿していただいていた皆川さんの「中越地震と登山道」の記事とともに掲載しました。
 - 首都圏に三支部ができて1年になります。その成果と課題を三支部の方に報告してもらいました。
- (神長幹雄)

日本山岳会会報 山 758号

2008年(平成20年) 7月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンピューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 宮下秀樹
編集人 神長幹雄
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印 刷 株式会社 双陽社

支部・委員会、同好会、個人・同期会が母体の同好会の順で掲載しております。また必要最小限の掲載をご了承ください(729号、730号参照)。会員のご理解とご協力をお願いいたします。